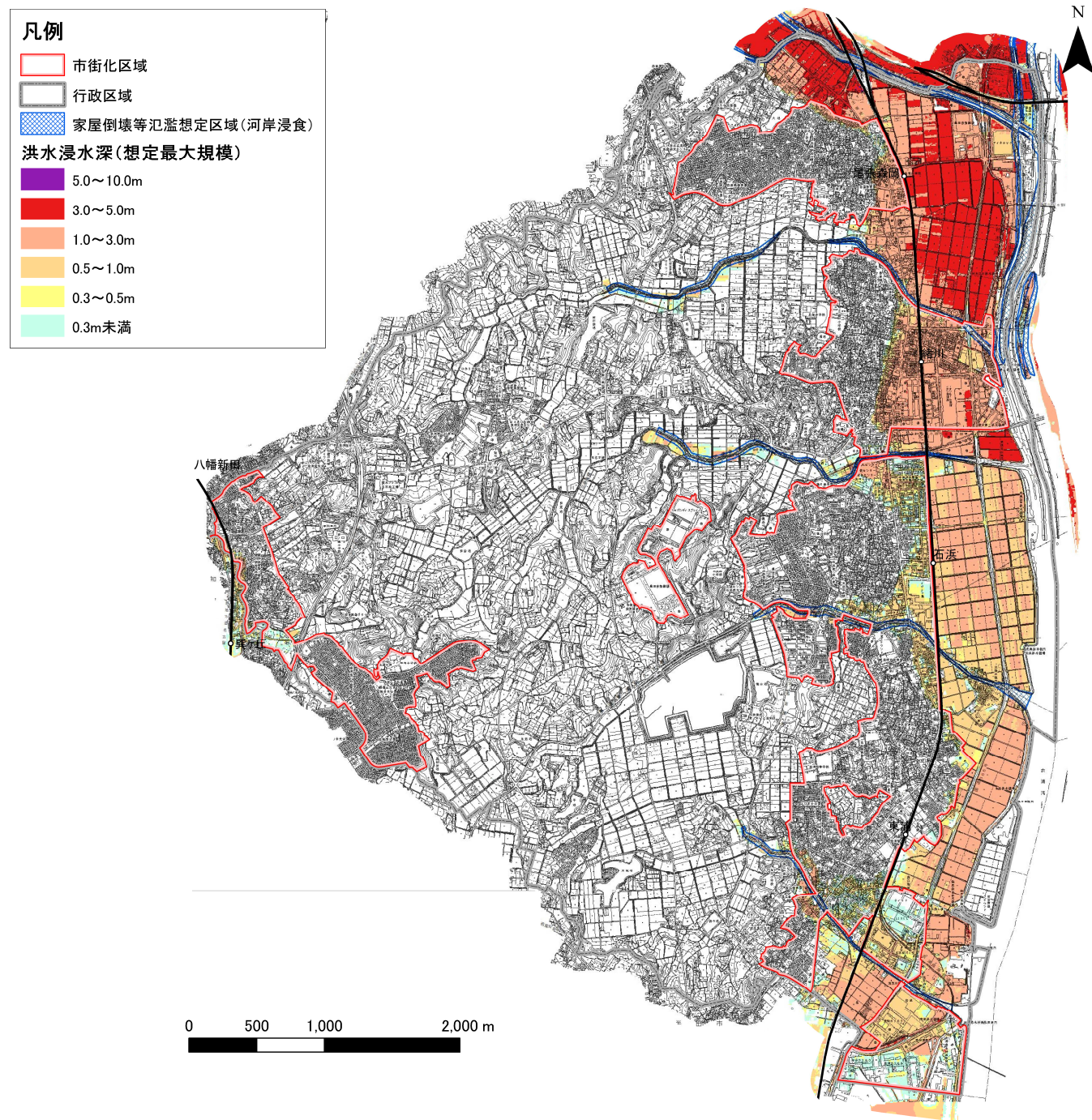


■洪水浸水想定区域（想定最大規模）

町東部の市街化調整区域を中心に浸水想定区域となっています。計画規模と比較して鉄道の西側まで浸水想定区域が広がっています。床上浸水被害が想定される浸水深 0.5m以上の浸水想定区域が鉄道駅西側の市街化区域にもみられますが、垂直避難が困難な浸水深 3.0m以上の浸水は市街化区域ではほとんどみられません。一方、家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）が町内を流れる各河川沿いの地域でみられ、一部で住宅も立地しています。

想定最大規模の浸水想定区域については、発生する確率が低いことや2階以上への垂直避難が可能であることを踏まえ、防災意識の啓発や避難体制の強化等のソフト対策を講じることを前提に居住誘導区域に含めます。一方、家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）については、建物等への甚大な被害が想定されるため、居住誘導区域から除外することとします。

図 洪水浸水想定区域（想定最大規模）



■津波災害警戒区域

町東部の鉄道東側の市街化調整区域を中心に浸水想定区域がみられます。津波に巻き込まれた場合、ほとんどの人が亡くなるとされる浸水深 1.0m以上の浸水想定区域が鉄道駅西側の市街化区域にもみられますが、木造家屋の半数が全壊する目安となる浸水深 2.0m以上の浸水は市街化区域内ではほとんどみられません。

想定される津波は、発生頻度が低く、地震発生からの津波到達時間が約 83 分と避難に要する時間確保が可能です。また、建物に被害が生じる可能性が高い浸水深 2.0m以上の浸水が想定されないことを踏まえ、防災意識の啓発や避難体制の強化等のソフト対策を講じることを前提に居住誘導区域に含めます。

図 津波災害警戒区域

